

令和7年度 熊谷恒子記念館

かなの美展「熊谷恒子と『万葉集』—晩年までの荘重な書—」の開催について

■ 展覧会内容

書家・熊谷恒子（1893～1986）は、昭和期に女性かな書の第一人者として活躍しました。当館では、かなの美展を開催し、日本最古の和歌集である『万葉集』を題材として、恒子が制作した晩年までの代表作品を紹介します。『万葉集』は、奈良時代に大伴家持（おおとものやかもち）が編纂したと伝わる和歌集です。『万葉集』に関心を持っていた恒子は、『万葉集』や『古今和歌集』の和歌を平安時代に書写した「継色紙（つぎしきし）」の筆跡を研究し、「筆致頗る老蒼古勁（深い趣を感じさせ、古風で力強い）にして散らし方にも世俗を脱した独特の趣がある」（註1）と評価しています。

とくに、恒子は「継色紙」の散らし書きに注目しました。かな書において「散らし書き」は、文字の配置構成によって、余白を活かした書表現する技法です。「継色紙」は、異なる料紙をつなぎ、和歌一首を継ぎ書きしているため、空間を美しく活用した散らし書きの特徴があります。

本展では、舒明天皇（じょめいてんのう）が奈良・香具山を詠んだ『万葉集』の和歌を表現した《やまとには》（1957年）や、持統天皇（じとうてんのう）が初夏に奈良・香具山を詠った和歌を題材とした《春すぎて》（1966年）の他に、志貴皇子（しきのみこ）が奈良・藤原京に遷都した後、かつて飛鳥宮を追想した和歌にもとづいた《うねめのそで》（1982年）などを展示します。『万葉集』の和歌を中心に、恒子が「老筆らしく渋味と荘重な書」（註2）と尊重していた「継色紙」の散らし書きを取り入れた恒子の書をお楽しみください。

註

- 1 熊谷恒子「継色紙について」『書道』第5巻9号、泰東書道院、1936年9月
- 2 熊谷恒子『書道 かな—基礎から創作まで—』マコー社、1978年

■ 会期

2025年12月20日（土）～2026年4月5日（日）

休館日：月曜日（月曜が祝日の場合は、その翌日が休館）及び年末年始（12月29日（月）～1月3日（土））

開館時間：9：00～16：30（入館は16：00まで）

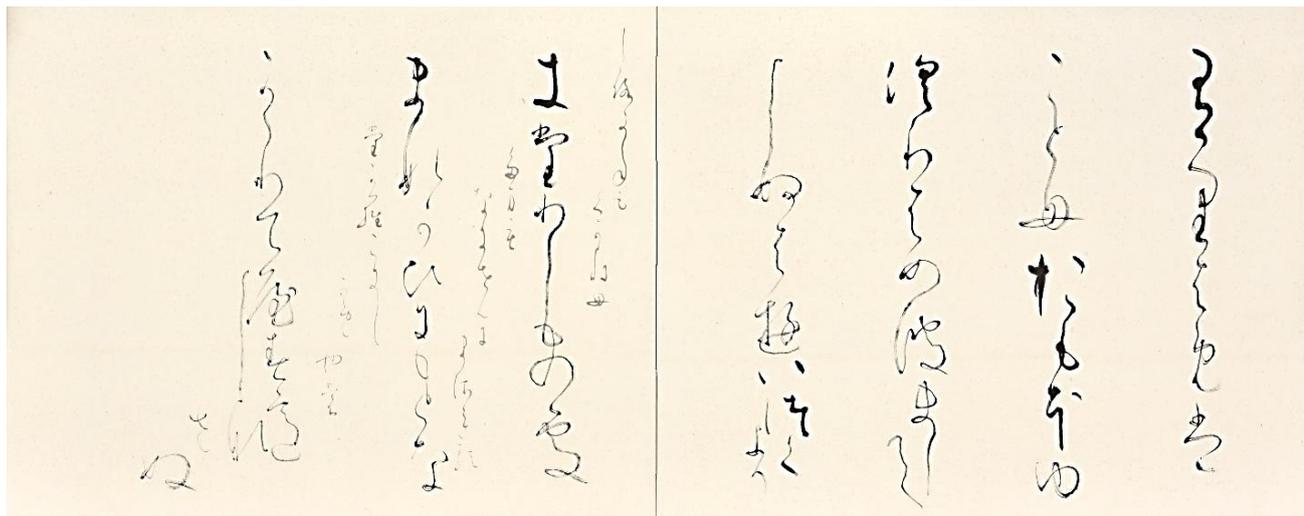
入館料：一般100円、中学生以下50円

※65歳以上（要証明）と未就学児及び障がい者手帳等をお持ちの方とその介護者1名は無料

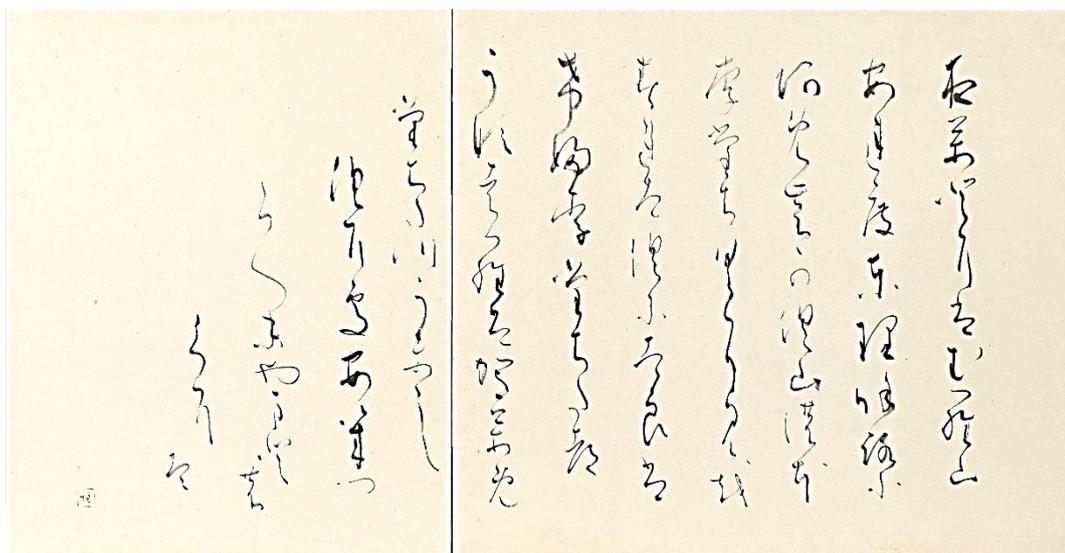
■ 会場

大田区立熊谷恒子記念館 大田区南馬込4-5-15（交通案内は3ページをご覧ください。）

■主な出品作品



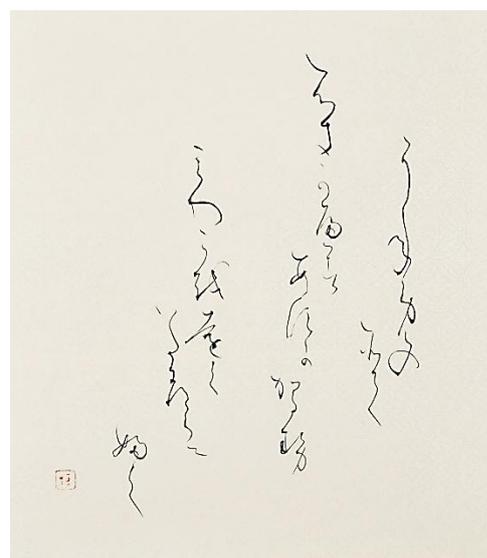
熊谷恒子《うりはめば（万葉集）》1952年、大田区立熊谷恒子記念館所蔵



熊谷恒子《やまとは（万葉集）》1957年、大田区立熊谷恒子記念館所蔵



熊谷恒子《わがやどに（万葉集）》1973年
大田区立熊谷恒子記念館所蔵



熊谷恒子《うねめのそで（万葉集）》1982年
大田区立熊谷恒子記念館所蔵

■関連イベント

○ギャラリートーク

日 時：2026年1月24日(土)、2月23日(月・祝)、2月28日(土)、3月14日(土)
各日11:00 および13:00

会 場：熊谷恒子記念館 展示室

参加費：入館料に含む

○地域連携プログラム「東京手描友禅 染色の技巧」

地域で文化・芸術活動を行っている作家と連携した展示を、かなの美展開催期間中に併催します。今回は、大田区伝統工芸士・町田久美子(まちだくみこ)氏の現代的な東京手描友禅の着物や帯などを、熊谷恒子の書とともに紹介します。

開 催：2026年2月25日(水)～4月5日(日)

参加費：入館料に含む

○第4回記念館講座「熊谷恒子と江馬家 風俗史家の兄・務の追想」

開催日時：2026年3月21日(土) 14:00～15:30

会 場：大田文化の森 5階多目的室(大田区中央2-10-1)

参加費：無料

定 員：100名(定員を超えた場合は、抽選)

締 切：2026年3月6日(金)必着

申込方法：往復はがきかFAX、右記の応募フォームに郵便番号、住所、氏名(ふりがな)、年齢、電話番号、希望人数(2名様まで)、講座名を明記のうえ、下記お問合せ先へお送りください。

※返信用はがきには、代表の方の住所と氏名をご記入ください。

※FAXの方は返信可能なFAX番号でお申込みください。



町田久美子氏による袋帯
「華紋」の制作風景



◆メールでのご応募
右の二次元コードからお申し込みいただけます。

■広報についてのお問合せ

本展をご紹介いただける場合にかぎり、作品画像をご利用いただけます。作品画像の使用に関しては、下記までお問い合わせください。

※作品画像のほか当館の外観の画像もご用意しております。

※使用に際しては、掲載内容・放映内容を事前に確認させていただきます。

※使用后、掲載誌および放映が記録されたメディアを見本として当館までご送付ください。

<お問合せ先>

大田区立熊谷恒子記念館 担当学芸員 飯島

〒143-0024 大田区中央4-2-1 TEL&FAX 03-3772-0680 (大田区立龍子記念館内)

大田区立熊谷恒子記念館 プレスリリース

■交通

○JR京浜東北線 大森駅西口から

東急バス4番「荏原町駅入口」行乗車「万福寺前」下車、徒歩5分

○都営地下鉄浅草線 西馬込駅南口から

南馬込桜並木通り（桜のプロムナード）に沿って徒歩10分

